

高齢者にも利用しやすい「コラボ鉄道」

鉄道は CO2 全排出量が他の交通機関に比べて少なく、自動車交通からのモーダルシフトの受け皿としての役目が期待されている。しかし、鉄道の責務は現在よりさらに地球に優しい交通機関に発展するだけでは十分ではない。やがて迎える高齡化社会に備え、自動車なみに利便性を備えた交通機関に生まれ変わることが必要であり求められている。

郊外の住宅地から高齢者を含む多くの乗客を乗せた路線バスが鉄道駅にたどり着くやいなやそのまま軌道内に乗り入れ電車に連結・牽引され街に向かう。街の駅に着くと、バスは乗客を乗せたまま再び路線バスとして街の中心部に散っていく。これが『コラボ鉄道（コラボレイティッド・レールウェイの略）』である。

乗客は郊外～街の中心部間を乗り換えなしで、また途中渋滞に合うこともなく短時間で移動できる。そのため、他に移動手段をもたない高齢者等はもちろんのこと交通渋滞に悩むマイカー利用者にとっても魅力的な交通機関となる。

『コラボ鉄道』では、鉄道と連結し軌道内を走行できるような構造を有する電気バスを開発する必要はあるが、軌道の一部を除き既存の鉄道インフラ設備をほとんどそのまま利用できる。電車に牽引されている間の電気バスは自らのバッテリー充電も可能となり継続走行距離に対する不安も解消される。『コラボ鉄道』は、環境への負担が軽減でき利便性の拡大も可能であるばかりか設備投資を大幅に抑えられる鉄道システムである（図-1）。

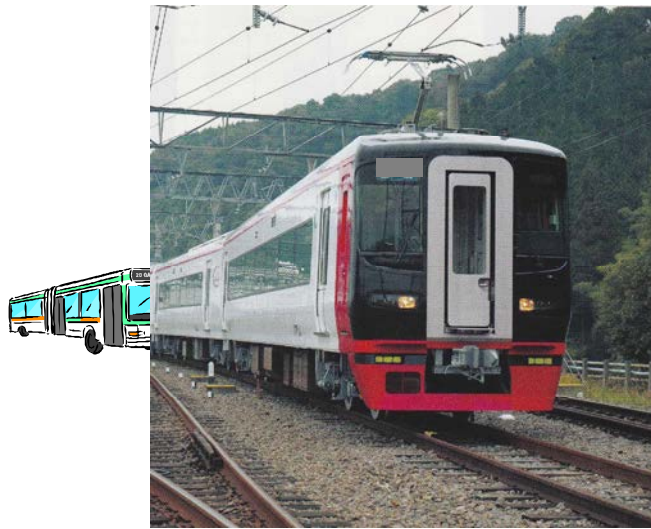


図-1 『コラボ鉄道』の概念図
(電車と連結・牽引されて走行するバス)